

平成24年度登別市まちづくり意識調査 結果報告書

平成25年3月

登別市

平成24年度登別市まちづくり意識調査結果報告書 目次

調査の概要

1	調査の目的	1
2	調査対象者及びその抽出方法	
	(1) 調査対象者	
	ア 必要標本数の算出	
	イ 調査対象者の算出	2
	(2) 調査対象者の抽出方法	
3	実施の方法	3
4	実施時期	
5	実施期間	
6	調査項目・設問数	
7	回収結果	4
8	集計	

調査結果の分析

◇第1章『やさしさと共生するまち』	5
➤ 子育て	
➤ 児童虐待	
➤ 健康	
➤ 保健/医療	
➤ 地域福祉	
➤ 高齢者	
➤ 障がい者	
➤ 自立した暮らし	
➤ 男女共同	
◇第2章『自然とともに暮らすまち』	16
➤ 環境保全	
➤ 廃棄物	
➤ 下水道	
➤ 自然環境	
➤ 防災	
➤ 消防・救急	
➤ 交通安全	
➤ 防犯	
➤ 消費生活/市民相談	
◇魅力あるまちづくりのために重要なこと	27

調査の概要

1 調査の目的

市民の視点に立ったまちづくりを推進するため、登別市総合計画及び第2期基本計画（以下、「基本計画」という。）における各施策に対する満足度及び重要度を調査し、行政サービスの向上及び各施策を展開するうえでの指標や基礎資料とすることを目的とする。

2 調査対象者及びその抽出方法

(1) 調査対象者

20歳以上の市民から、町別・年代別は無作為に抽出した3,500人。

ア 必要標本数の算出

統計上必要な標本（サンプル）を次により求める。

$$n \geq \frac{N}{\left(\frac{e}{z}\right)^2 \times \left(\frac{N-1}{P(1-P)}\right) + 1}$$

N：母集団

調査や研究の対象となるものの全体。標本を抽出するための母体となる統計量の集まり。

本調査の実施にあたっては、20歳以上の市民が対象となる。

$N = (\text{住民基本台帳人口：} 51,474 \text{ 人}) - (\text{0～19歳の人口：} 8,406) = \underline{43,068 \text{ 人}}$ （平成24年3月末値）

e：標本誤差

標本統計量の精度を表す。

一般的に政府の世論調査などで用いる標本誤差 3% を用いる。

Z：信頼率に対応する正規分布点

区間推定において、ある確率（信頼係数）のもとで母数がある区間に含まれると推定された区間のこと。信頼限界とも言う。95%信頼区間とは、無作為抽出を100回繰り返し、その都度信頼区間を計算した場合、95回くらいは信頼区間中に母数が含まれるということ。

ここでは、信頼率を95%とし、その信頼率に対応する正規分布点 1.96 を用いる。

P：予想される母集団の比率

母集団におけるある条件を満たす対象の比率。母比率を50%とすると最も安全な標本を求めることができることから、本調査の実施にあたっては 50% を用いる。

これにより、計算すると統計学上必要と判断される標本の大きさ (n) は、1,041人以上となることから、本調査では標本数を1,100人と設定した。

イ 調査対象者数の算出

アで求めた標本数確保のため、調査対象者数を次により求める。

$$\text{調査対象者数} \geq \text{標本数} \div \text{回収見込数} (\alpha)$$

回収見込数 (α) は、35%として想定する。

これにより、調査対象者数は 3,143 以上 となることから、本調査では、統計学上必要と判断される標本数を確実に得るため、調査対象者数を 3,500 人と設定した。

(2) 調査対象者の抽出方法

平成 24 年 3 月末時点の 20 歳以上の人口を町別、年代別 (20、30、40、50、60 歳代、70 歳以上) に集計し、人口比率により町別の調査対象人数を振り分け、その後、町別の年代比率により各年代の対象者数を振り分ける。

No.	地区／年代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
1	カルルス町	0	0	0	1	1	1	3
2	登別温泉町	12	9	7	7	8	8	51
3	上登別町	0	0	0	1	1	1	3
登別温泉・カルルス地区		12	9	7	9	10	10	57
4	登別本町	7	10	11	12	20	27	87
5	登別港町	0	0	0	1	1	1	3
6	登別東町	16	19	25	29	43	62	194
7	富浦町	2	2	4	4	3	10	25
8	中登別町	2	2	4	5	9	20	42
登別・富浦地区		27	33	44	51	76	120	351
9	幌別町	15	22	22	23	30	39	151
10	幸町	1	2	2	3	4	6	18
11	新栄町	1	0	1	0	2	1	5
12	大和町	1	1	1	2	3	4	12
13	中央町	14	17	16	16	24	31	118
14	常盤町	15	23	32	22	30	38	160
15	柏木町	17	26	23	31	38	36	171
16	片倉町	7	11	11	14	16	25	84
17	新川町	13	21	18	23	34	38	147
18	富士町	10	18	21	26	37	72	184
19	千歳町	18	19	19	24	30	26	136
20	来馬町	0	0	0	0	1	1	2
21	札内町	0	1	1	1	2	1	6
22	青葉町	2	3	3	2	2	1	13
23	緑町	12	10	8	7	13	14	64
24	桜木町	19	37	34	24	36	31	181
25	鉦山町	0	0	0	0	0	1	1
26	川上町	0	0	0	0	0	0	0
幌別地区		145	211	212	218	302	365	1,453
27	富岸町	21	32	33	33	24	20	163
28	若山町	14	28	23	19	27	37	148
富岸・若山地区		35	60	56	52	51	57	311
29	若草町	29	41	41	55	87	90	343
30	新生町	36	51	45	58	75	71	336
若草・新生地区		65	92	86	113	162	161	679
31	栄町	12	15	13	14	21	26	101
32	鷺別町	29	52	46	42	56	74	299
33	美園町	25	29	27	31	52	72	236
34	上鷺別町	1	2	1	2	4	3	13
鷺別・美園地区		67	98	87	89	133	175	649
調査対象者数		351	503	492	532	734	888	3,500
調査対象者数の割合		10.03%	14.37%	14.06%	15.20%	20.97%	25.37%	100.00%
人口分布		4,346	6,204	6,056	6,527	9,019	10,916	43,068
人口の割合		10.09%	14.41%	14.06%	15.16%	20.94%	25.35%	100.00%

3 実施の方法

調査票を調査対象者へ郵送にて送付し、郵送及び持参の方法にて回収した。

4 実施時期

調査は平成 24 年 9 月 10 日から 10 月 10 日までとして実施した。

5 実施期間

本調査は平成 24 年度から平成 26 年度まで 3 年間実施し、各年度の設問は次に掲げる事項を基本とする。

- (1) 平成 24 年度：基本計画の第 1 章『やさしさと共生するまち』・第 2 章『自然とともに暮らすまち』に係る設問等。
- (2) 平成 25 年度：基本計画の第 3 章『大地に根ざしたたくましい産業が躍動するまち』・第 4 章『調和の中でふるさとを演出するまち』に係る設問等。
- (3) 平成 26 年度：基本計画の第 5 章『豊かな個性と人間性を育むまち』・第 6 章『担いあうまちづくり』に係る設問等。

6 調査項目・設問数

登別市のまちづくりに関する「満足度」と「重要度」などについて、基本計画に掲げる各施策等に沿って設問を設定。平成 24 年度は基本計画の第 1 章と第 2 章を基本として調査を実施した。

調査項目	設問数	設問内容
調査対象者の基本情報	6 問	調査対象者の居住町、性別、年代、居住年数などの調査
登別市のまちづくりに関する「満足度」と「重要度」	9 問	第 1 章に掲げる施策（「子育て」「児童虐待」「健康」「保健/医療」「地域福祉」「高齢者」「障がい者」「自立した暮らし」「男女共同」）に対する満足度調査
	1 問	第 1 章の総合的な満足度調査
	1 問	第 1 章に掲げる施策の重要度調査
	9 問	第 2 章に掲げる施策（「環境保全」「廃棄物」「下水道」「自然環境」「防災」「消防・救急」「交通安全」「防犯」「消費生活/市民相談」）に対する満足度調査
	1 問	第 2 章の総合的な満足度調査
	1 問	第 2 章に掲げる施策の重要度調査
魅力あるまちづくりのために重要なこと	1 問	基本計画に掲げる施策の中で魅力あるまちづくりのために重要なことを調査
その他	—	市政への意見・要望等を調査

※ 記入方法：複数項目からの選択性を基本とし、一部記入方式とした。

7 回収結果

- (1) 調査票の発送数：3,500 人
- (2) 回収した標本数：1,071 人
- (3) 回 収 率：30.60%

8 集計

- (1) 集計は小数第3位を四捨五入して行った。したがって、回答率の合計が100%から1%の範囲で増減することがある。
- (2) グラフ中の(n)は比率算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。
- (3) 回答の比率(%)はその設問の回答者数を基数(n)として算出した。したがって、複数回答の設問(魅力あるまちづくりのために重要なこと)は全ての比率を合計すると100%を超える。

調査結果の分析

◇第1章『やさしさと共生するまち』

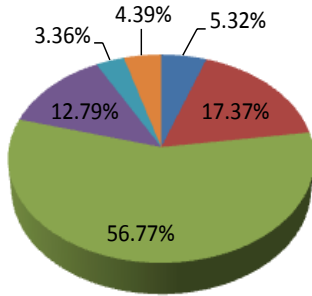
【子育て】

子どもを安心して生み、健やかに育てることができるような環境が整っている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

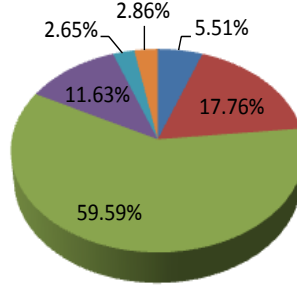
〔 全 体 〕

サンプル全体：(n) 1,071

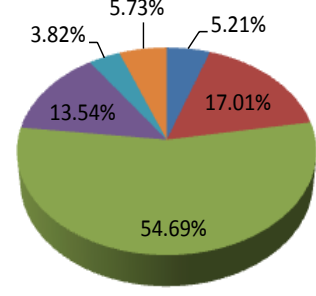


〔 性 別 〕

男性：(n) 490

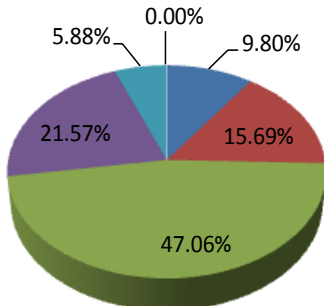


女性：(n) 576

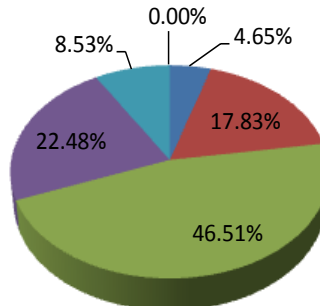


〔 年 代 別 〕

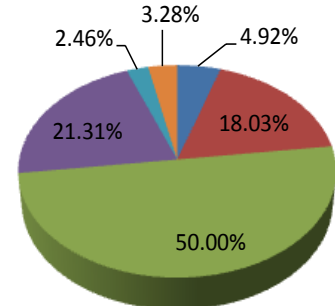
20歳代：(n) 51



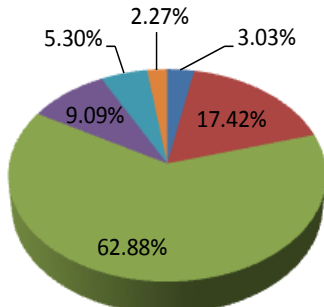
30歳代：(n) 129



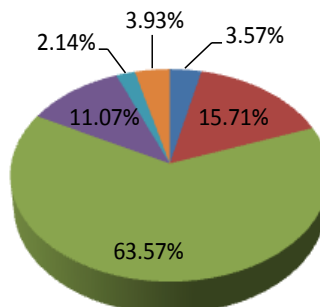
40歳代：(n) 122



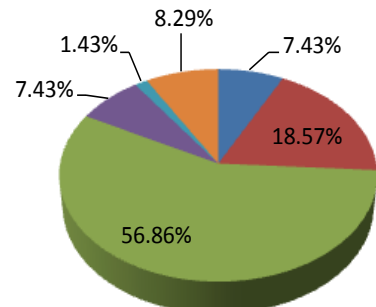
50歳代：(n) 132



60歳代：(n) 280



70歳以上：(n) 350



【考察】

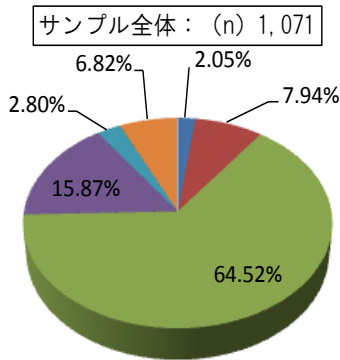
- 総体的には「満足」「やや満足」の方が「不満」「やや不満」の割合よりやや高い。
- 性別では女性の方が男性に比し「不満」「やや不満」の割合がやや高く、また、年代別では20-40歳代で「不満」「やや不満」の割合が高くなっており、現に子育てに携わる機会が多いと考えられる層の不満感にやや高い傾向が見られる。

【児童虐待】

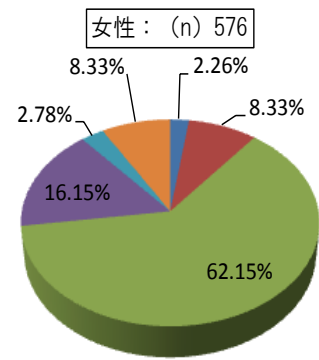
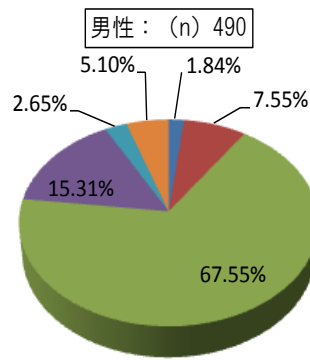
児童虐待に対する理解が深められ、親自身のストレス解消や児童虐待の予防、早期対応などを支援する環境が整っている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

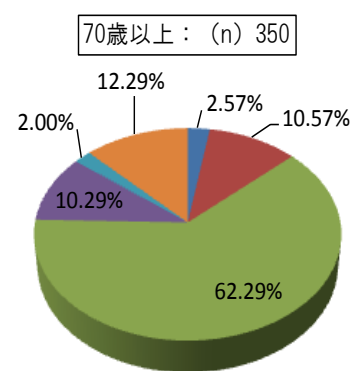
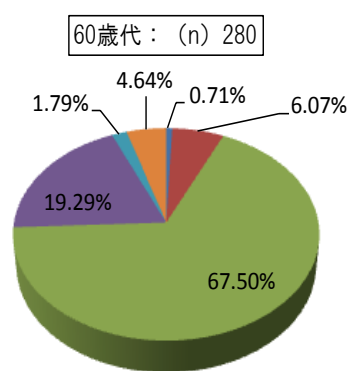
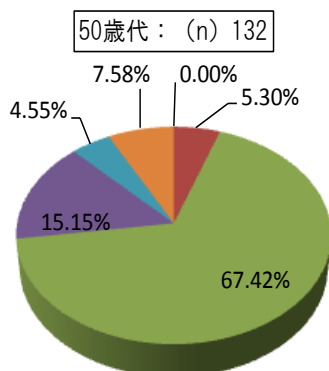
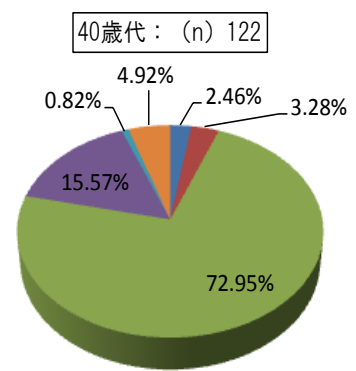
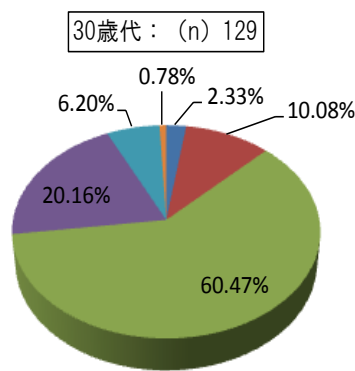
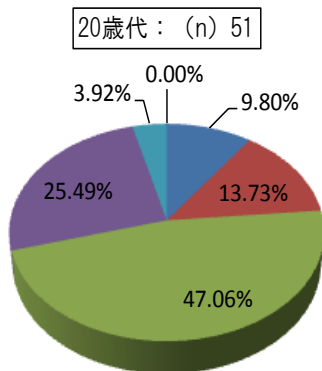
〔 全 体 〕



〔 性 別 〕



〔 年 代 別 〕



【考察】

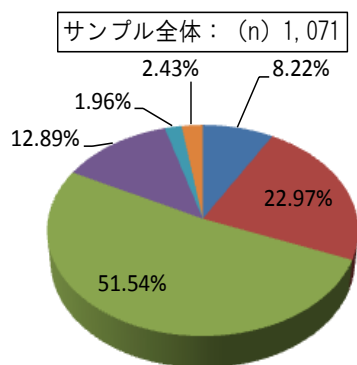
- 総体的には「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」の割合よりやや高い。
- 性別では男女間において大差はないが、年代別では20-30歳代で「不満」「やや不満」の割合が高く、若い世代での不満感にやや高い傾向が見られる。

【健康】

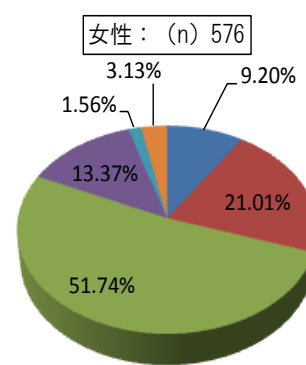
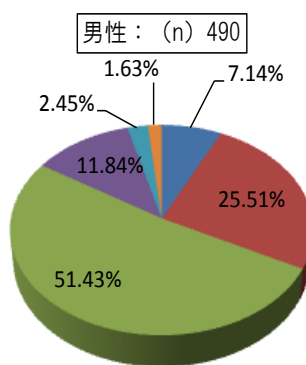
健康づくりに関する情報提供や取組により、市民一人ひとりに健康の自己管理意識が浸透し、生活習慣が改善されている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

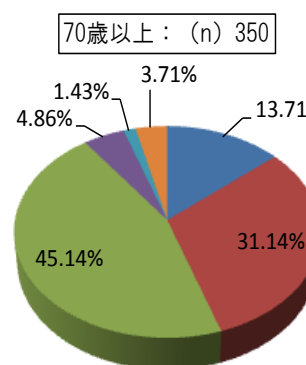
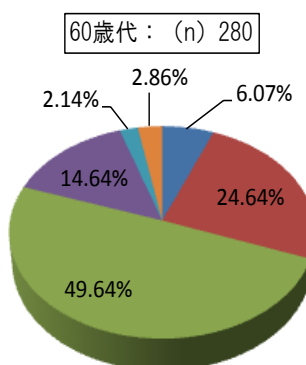
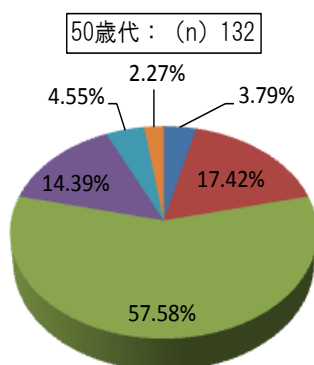
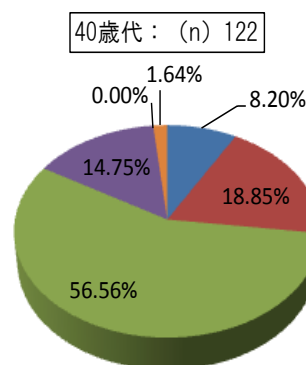
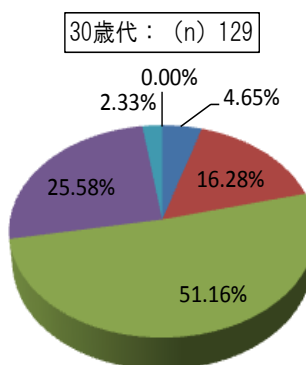
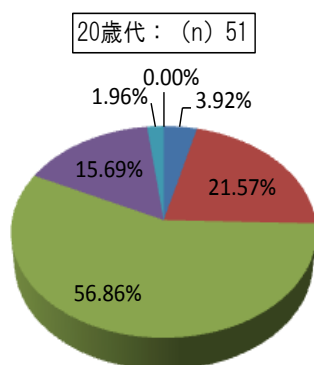
〔 全 体 〕



〔 性 別 〕



〔 年 代 別 〕



【考察】

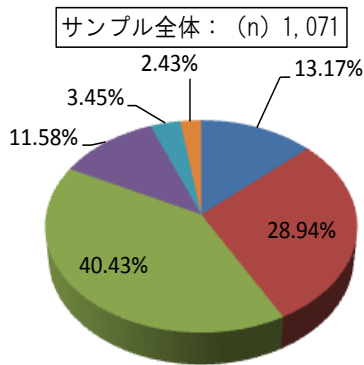
- 総体的には「満足」「やや満足」の方が「不満」「やや不満」の割合より高い。
- 性別では男女間において大差はないが、年代別では60歳代-70歳以上で「満足」「やや満足」の割合が高く、高齢世代での満足感にやや高い傾向が見られる。

【保健/医療】

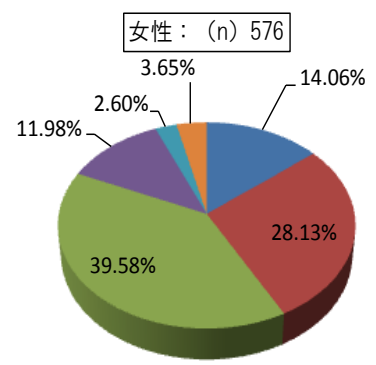
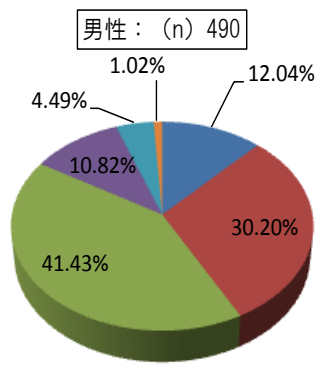
健康診査や予防接種などの保健予防環境や、いつでも適切な医療サービスを受けられる医療体制が整っている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

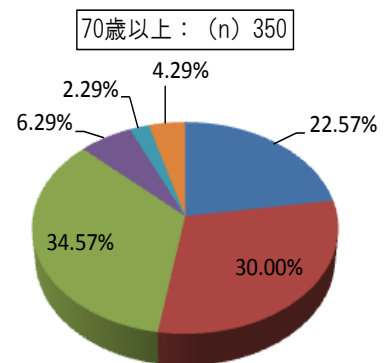
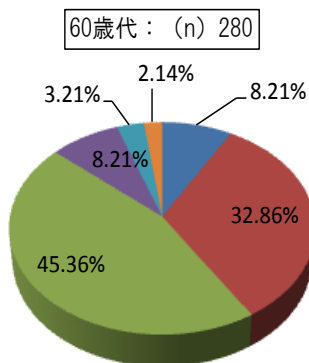
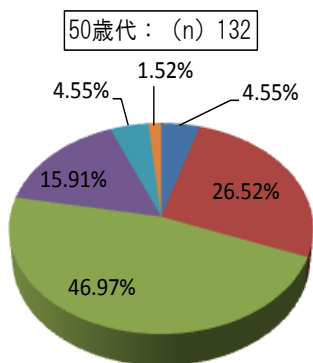
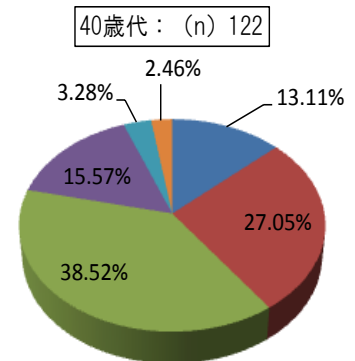
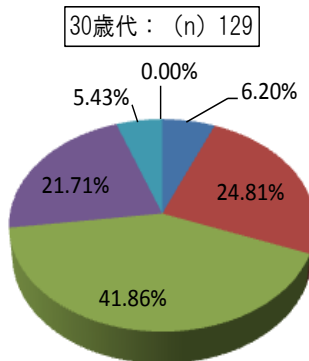
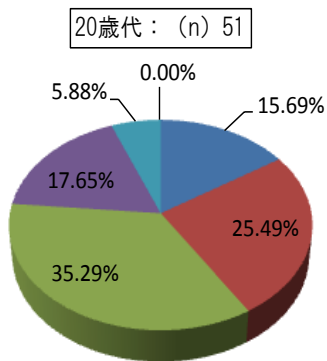
〔 全 体 〕



〔 性 別 〕



〔 年 代 別 〕



【考察】

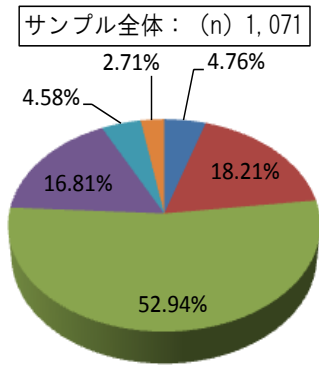
- 総体的には「満足」「やや満足」の方が「不満」「やや不満」の割合より高い。
- 性別では男女間において大差はないが、年代別では60歳代-70歳以上で「満足」「やや満足」が高く、一方で「不満」「やや不満」の割合が低くなっており、高齢世代の満足感にやや高い傾向が見られる。

【地域福祉】

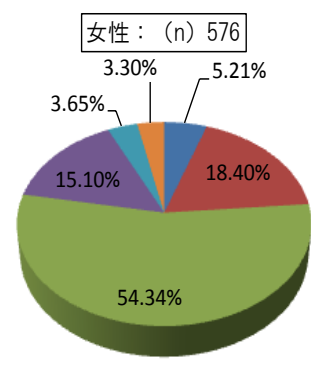
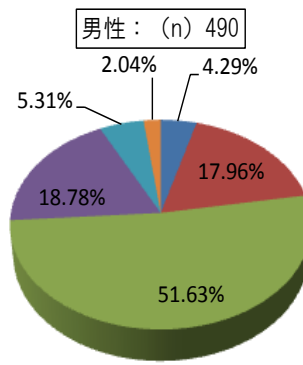
お互いに支え合う心やボランティア活動の輪が広がるなど、市民誰もがいきいきと暮らしていける社会が実現している。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

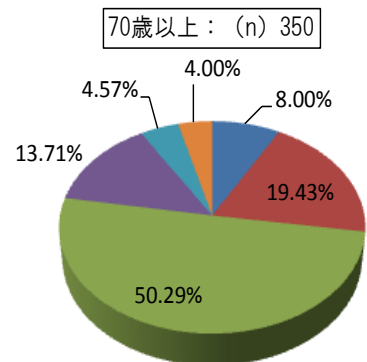
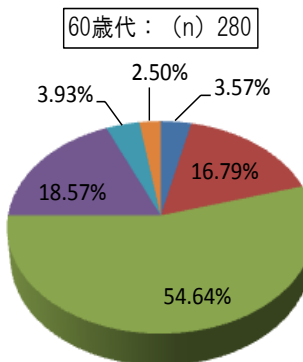
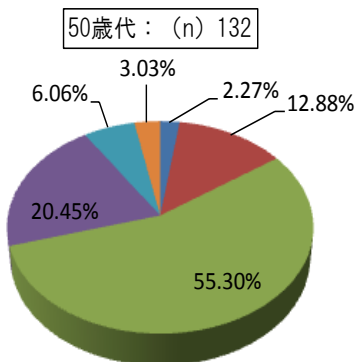
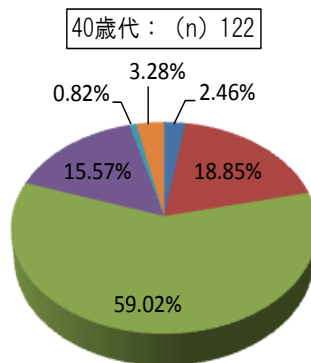
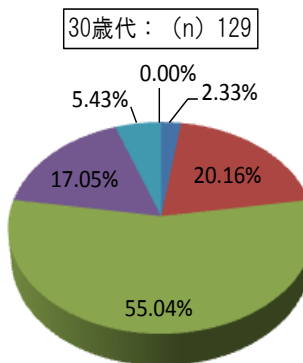
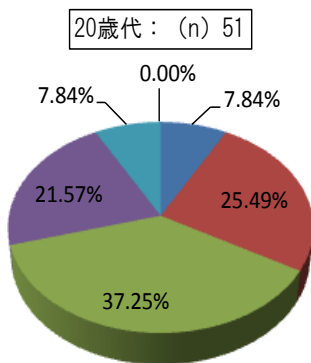
〔全体〕



〔性別〕



〔年代別〕



【考察】

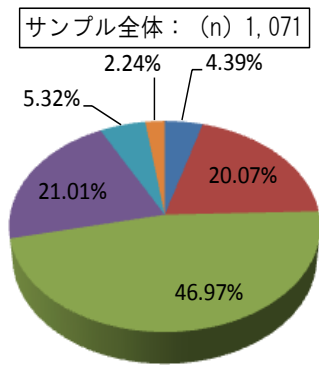
- 総体では「満足」「やや満足」と「不満」「やや不満」の割合に大差はない。
- 性別では男性の方が女性に比し「不満」「やや不満」の割合がやや高い傾向にある。
- 年代別では20-40歳代の方が50歳代-70歳以上より「満足」「やや満足」の平均割合がやや高く、高齢世代に比し若い世代の満足感にやや高い傾向が見られる。

【高齢者】

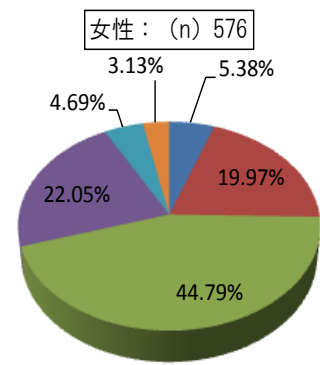
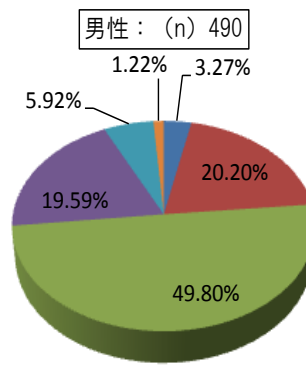
高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、生活基盤の整備や介護サービスの充実など、地域社会が一体となった環境が整っている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

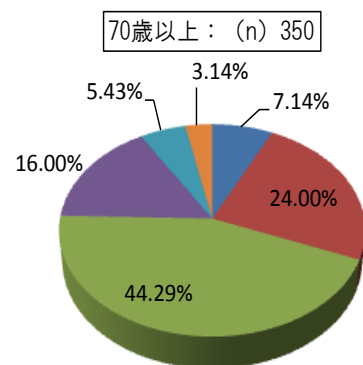
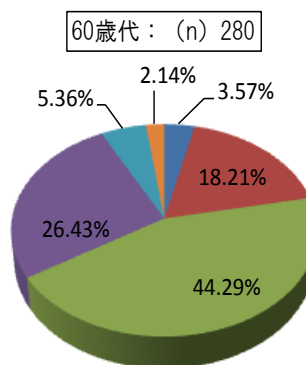
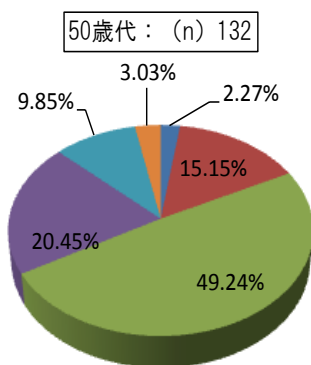
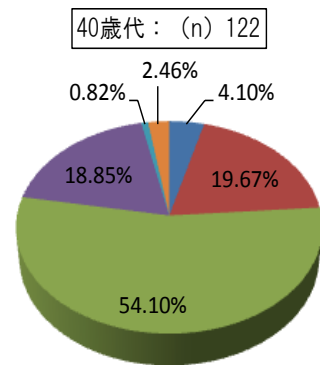
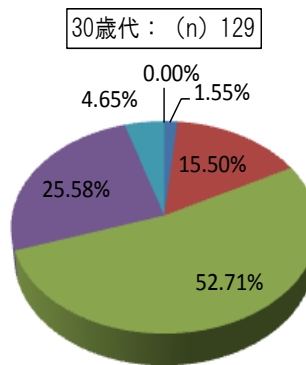
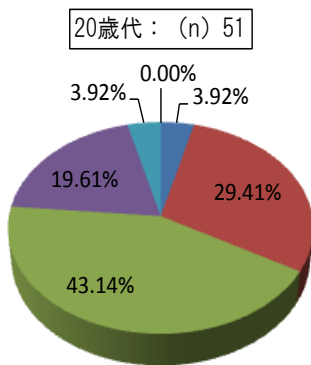
〔全体〕



〔性別〕



〔年代別〕



【考察】

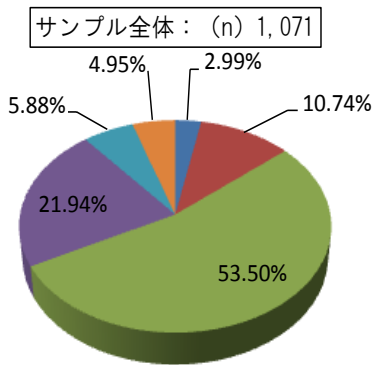
- 総体では「満足」「やや満足」と「不満」「やや不満」の割合に大差はない。
- 性別では男女間において大差はないが、年代別では50歳代-70歳以上の方が20-40歳代より「不満」「やや不満」の平均割合がやや高く、若い世代に比し高齢世代の不満感にやや高い傾向が見られる。

【障がい者】

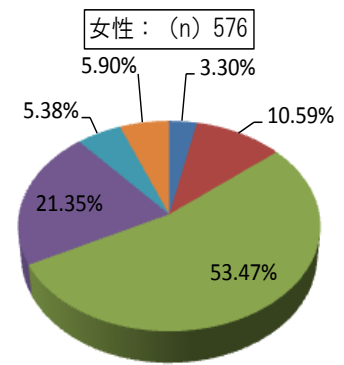
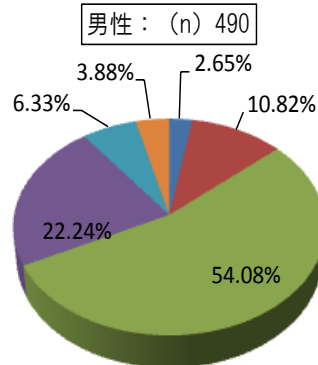
障がいを持つ方が住み慣れた地域で安心して暮らし、自立できるよう、医療・相談・就労支援など、地域社会が一体となった環境が整っている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

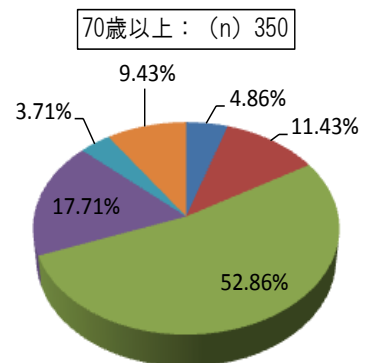
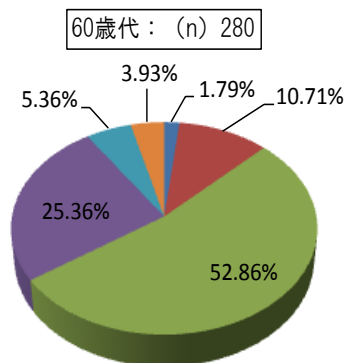
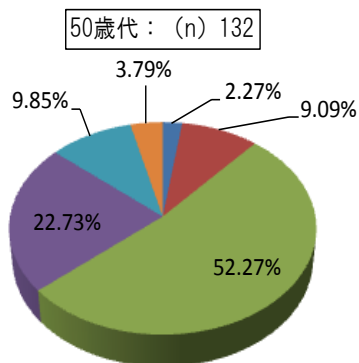
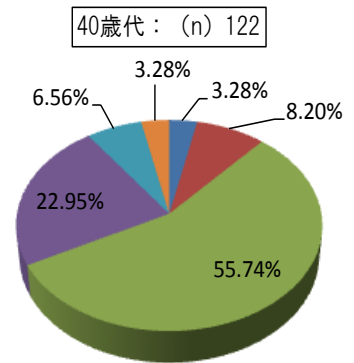
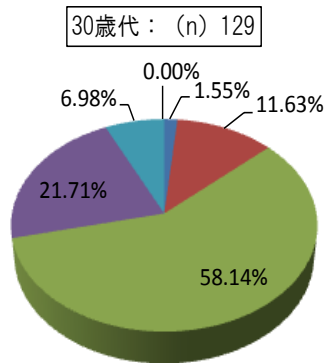
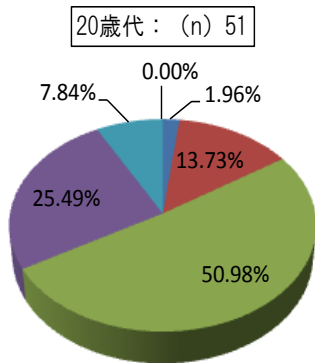
〔 全 体 〕



〔 性 別 〕



〔 年 代 別 〕



【考察】

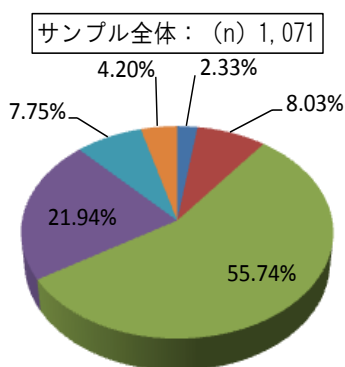
- 総体的には「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」の割合より高い。
- 男女それぞれ、また、どの世代においても「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」より割合が高く、性別、年代問わず不満感に高い傾向が見られる。

【自立した暮らし】

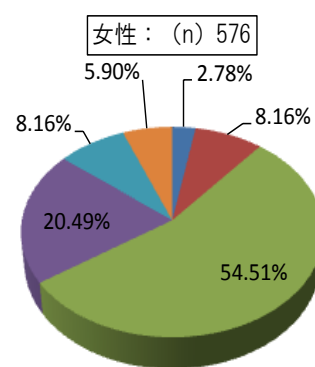
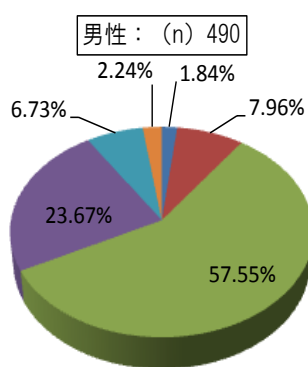
生活基盤の弱い立場にある方への生活相談や社会参加への支援など、生活安定と経済的自立を促す環境が整っている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

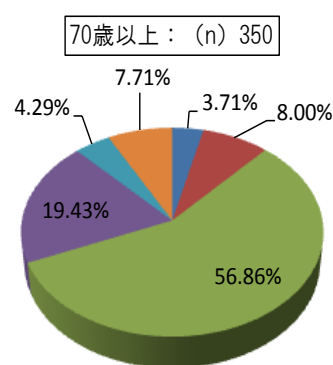
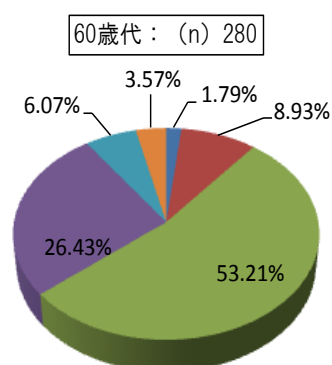
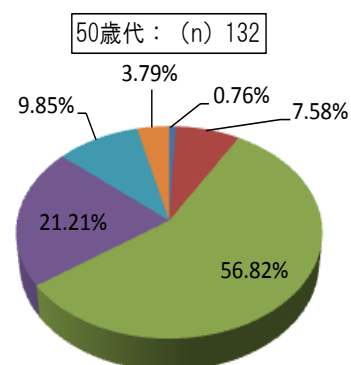
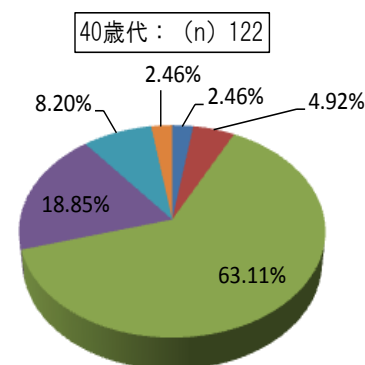
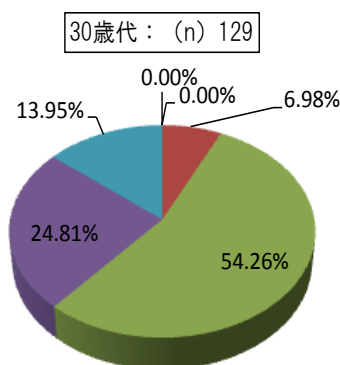
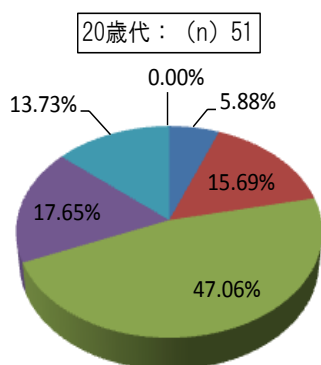
〔全体〕



〔性別〕



〔年代別〕



【考察】

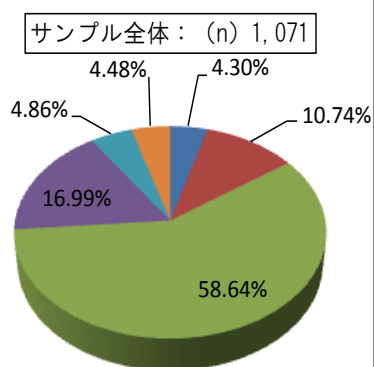
- 総体的には「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」の割合より高い。
- 男女それぞれ、また、どの世代においても「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」より割合が高く、性別、年代問わず不満感に高い傾向が見られる。

【男女共同】

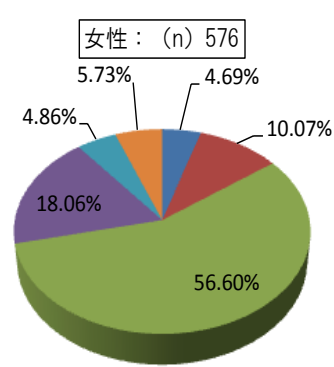
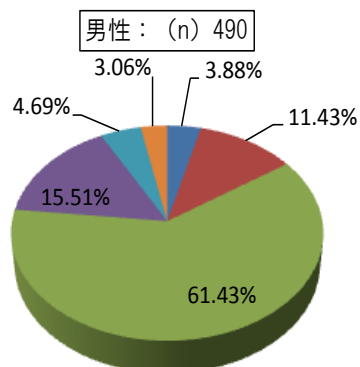
家庭や職場で男女平等の意識が浸透し、男女が共に尊重し合い、あらゆる分野に参画できる社会となっている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

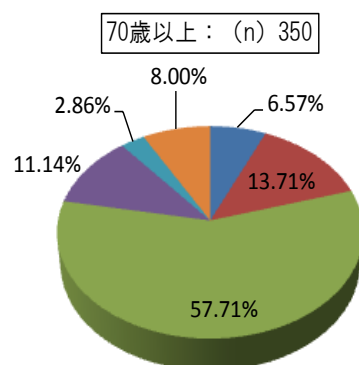
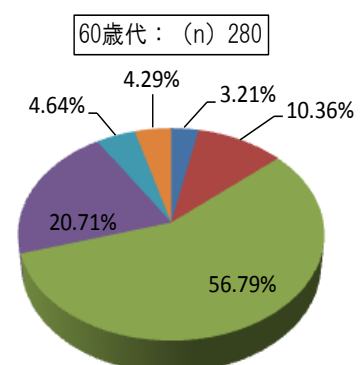
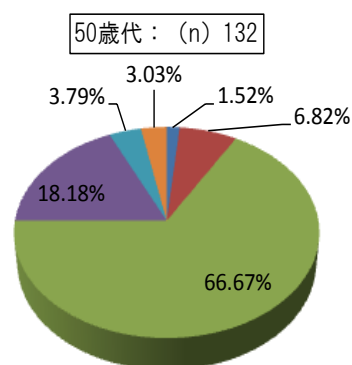
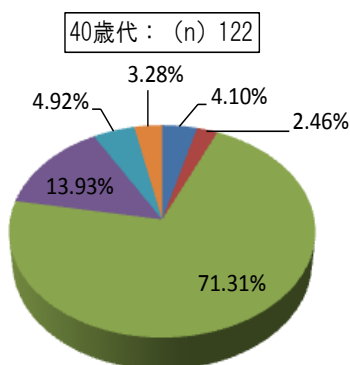
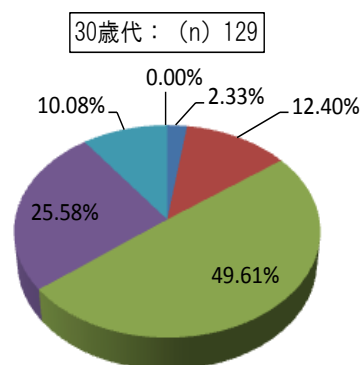
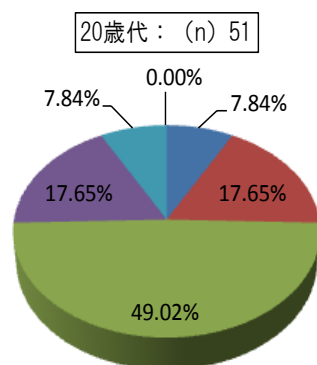
〔全体〕



〔性別〕



〔年代別〕



【考察】

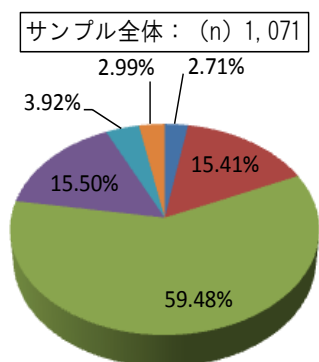
- 総体的には「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」の割合よりやや高い。
- 性別では男女間において大差はないが、年代別では20歳代と70歳以上を除き「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」より割合が高く、不満感にやや高い傾向が見られる。

【第1章の総合的な満足度】

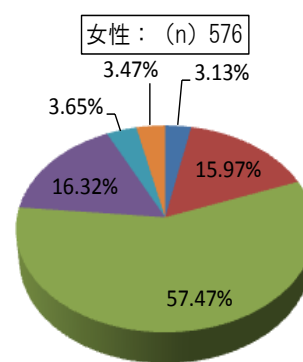
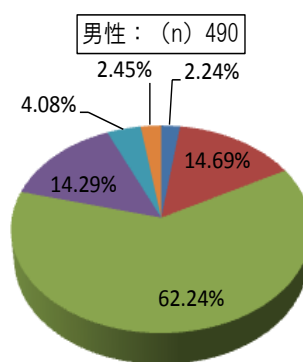
第1章「やさしさと共生するまち」（子育て、児童虐待、健康、保健/医療、地域福祉、高齢者、障がい者、自立した暮らし、男女共同）について、あなたの総合的な「満足度」をお聞かせください。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

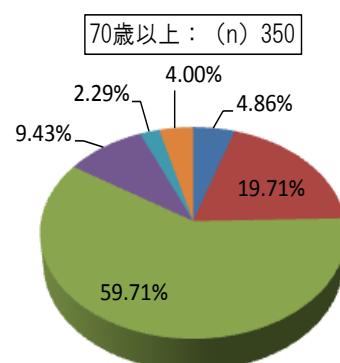
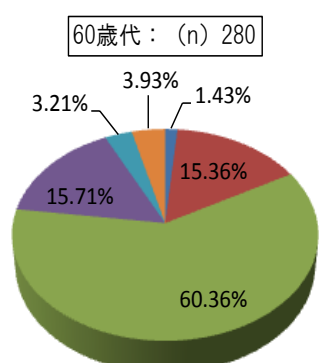
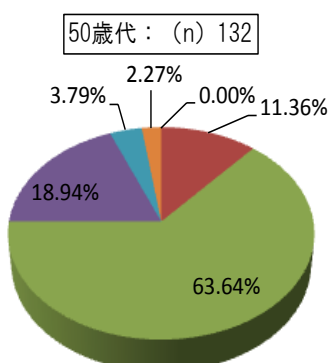
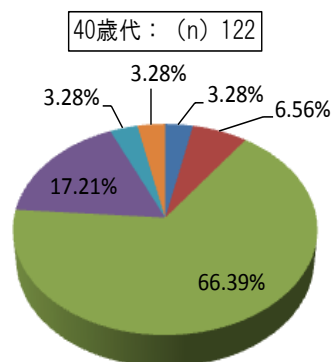
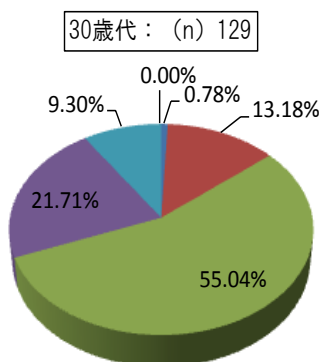
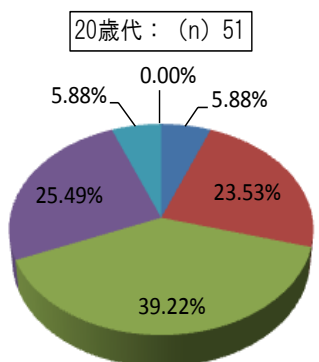
〔全体〕



〔性別〕



〔年代別〕

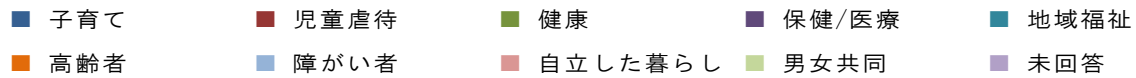


【考察】

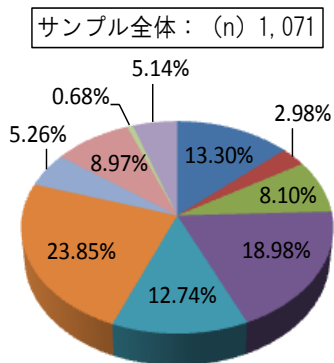
- 総体では「満足」「やや満足」と「不満」「やや不満」の割合に大差はない。
- 性別では男女間において大差はないが、年代別では60歳代以下の各世代で「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」の割合よりやや高く、不満感にやや高い傾向が見られる。

【第1章に掲げる施策の重要度】

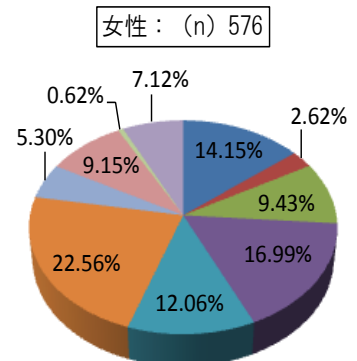
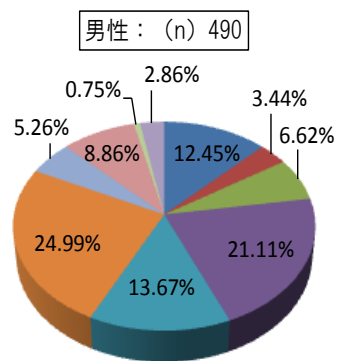
第1章「やさしさと共生するまち」（子育て、児童虐待、健康、保健/医療、地域福祉、高齢者、障がい者、自立した暮らし、男女共同）の中で、あなたが特に「重要と考える項目」をお聞かせください。



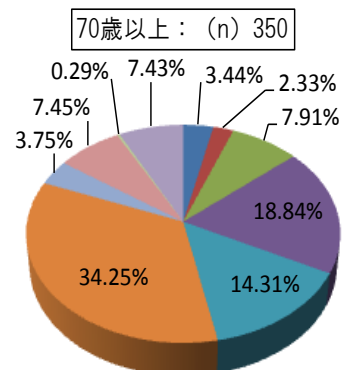
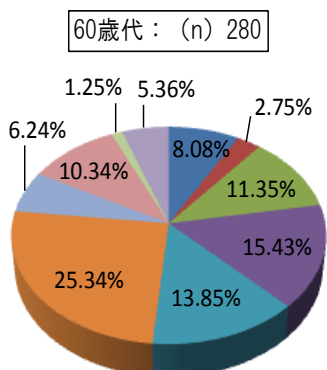
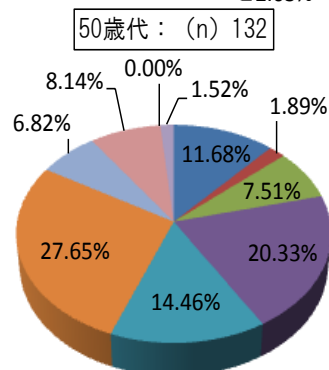
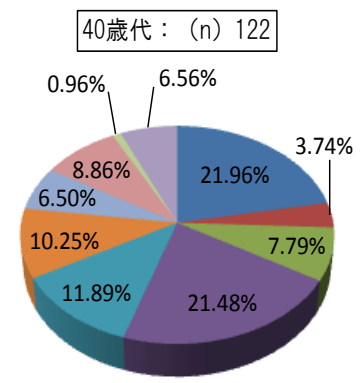
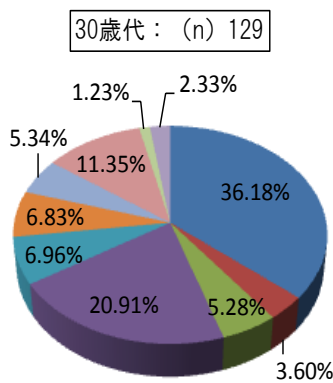
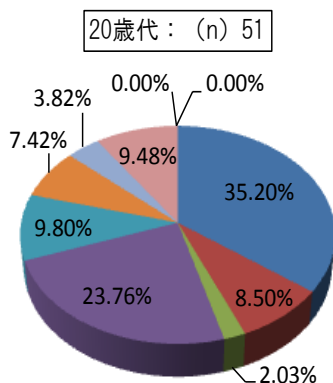
〔全体〕



〔性別〕



〔年代別〕



【考察】

- 総体的には「高齢者」が最も高く、次いで「保健/医療」、「子育て」の順で重要とする割合が高い。
- 性別では男女共に「高齢者」「保健/医療」の順で重要とする割合が高く、次いで男性は「地域福祉」、女性は「子育て」が続いている。
- 年代別では若い世代が「子育て」を重要とし、高齢世代で「高齢者」を重要とする割合が最も高い。また、全世代において「保健/医療」への意識の高さがうかがえる。

調査結果の分析

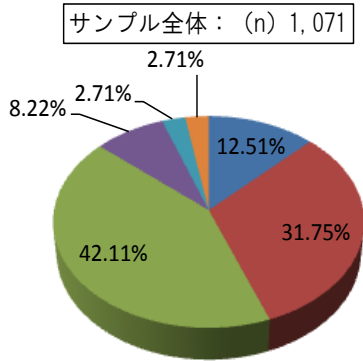
◇第2章『自然とともに暮らすまち』

【環境保全】

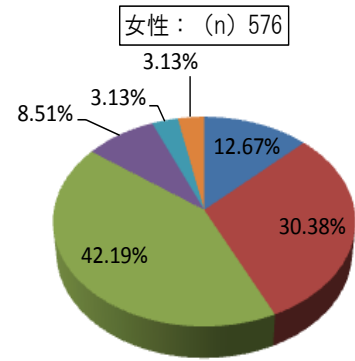
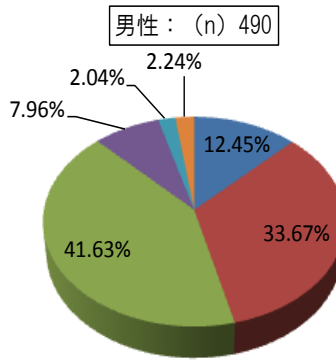
水質汚濁や騒音、大気汚染などが無く、身近な自然環境が保全されている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

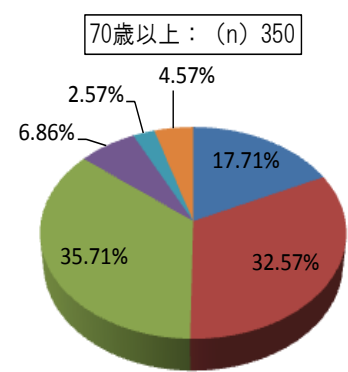
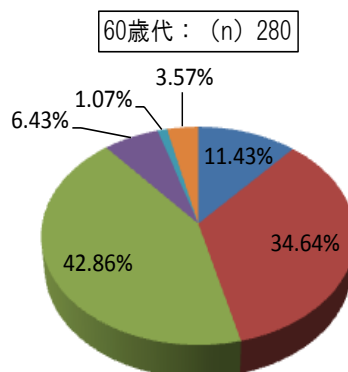
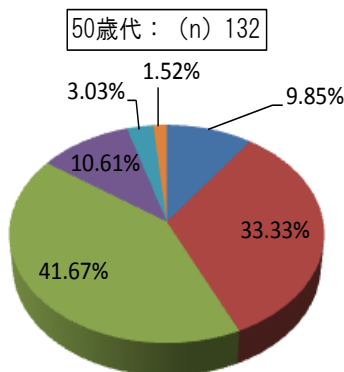
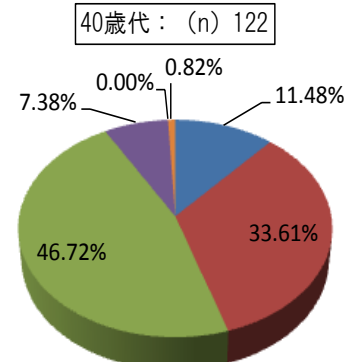
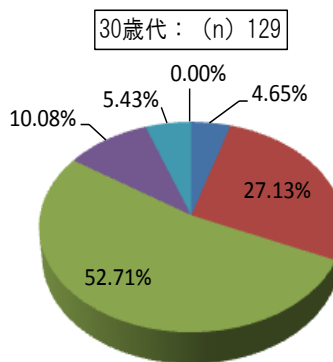
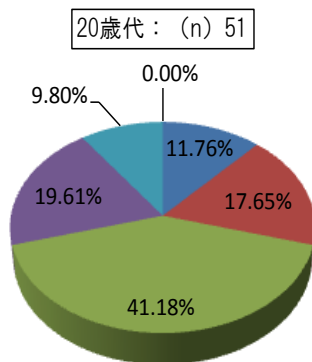
〔全体〕



〔性別〕



〔年代別〕



【考察】

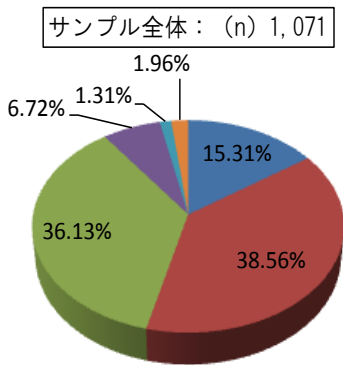
- 総体的には「満足」「やや満足」の方が「不満」「やや不満」の割合を大幅に上回っている。
- 性別では男性の方が女性に比し「満足」「やや満足」の割合がやや高い傾向にある。
- 年代別では30歳代以上の各年代で「満足」「やや満足」の方が「不満」「やや不満」の割合を大幅に上回っており、満足感に高い傾向が見られる。

【廃棄物】

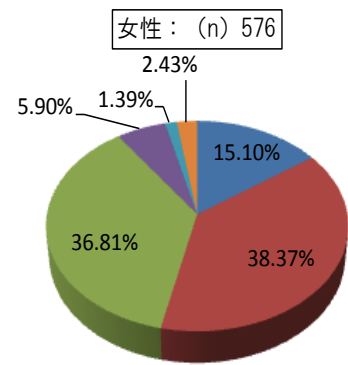
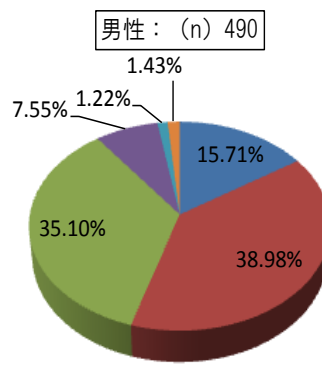
資源のリサイクル、ごみの減量や分別などが普及し、環境にやさしいライフスタイルが広まっている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

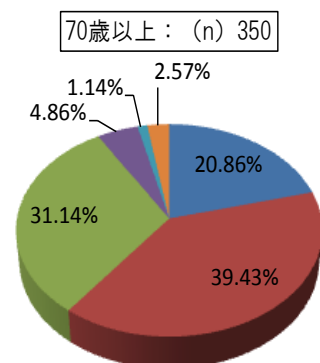
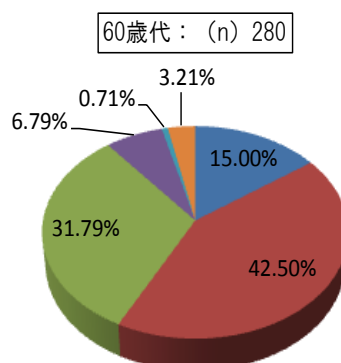
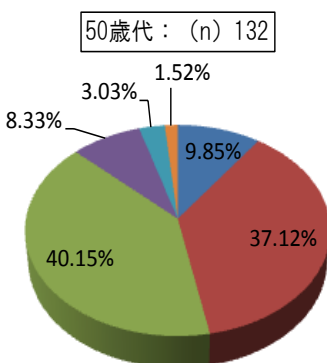
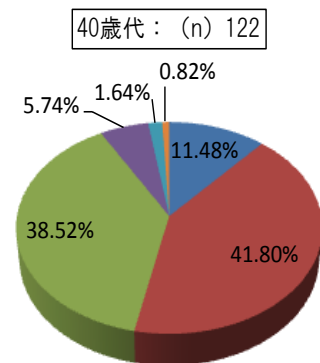
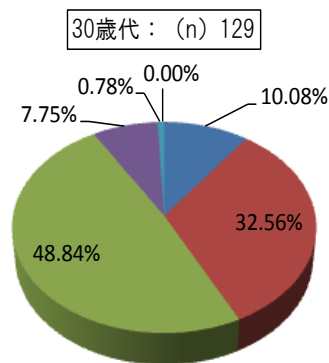
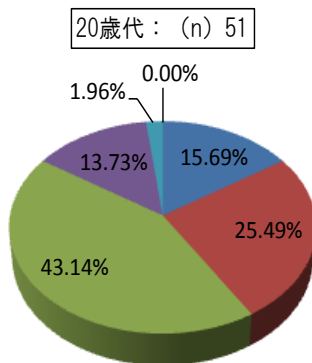
〔全体〕



〔性別〕



〔年代別〕



【考察】

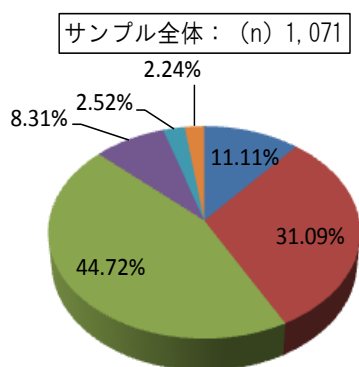
- 総体的には「満足」「やや満足」の方が「不満」「やや不満」の割合よりやや高い。
- 男女それぞれ、また、どの世代においても「満足」「やや満足」の方が「不満」「やや不満」の割合を大幅に上回っており、性別、年代問わず満足感に高い傾向が見られる。

【下水道】

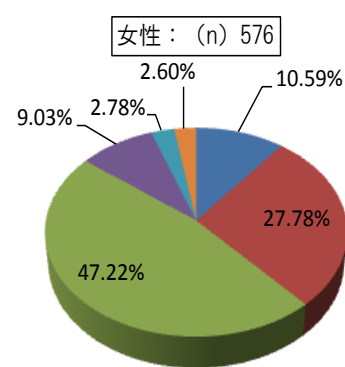
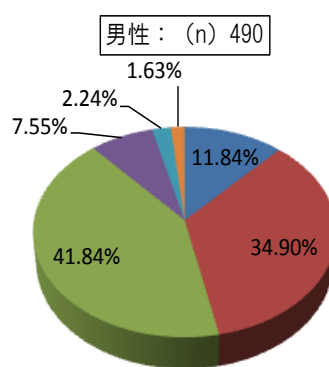
生活排水などによる海洋汚染や河川汚濁が防止され、清潔で衛生的な環境が整っている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

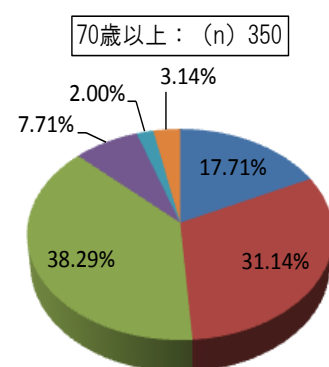
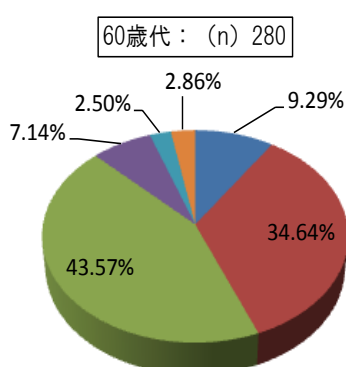
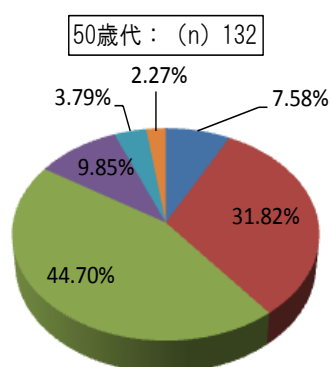
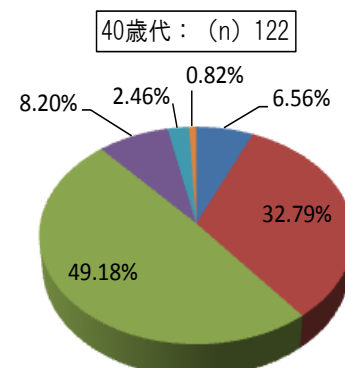
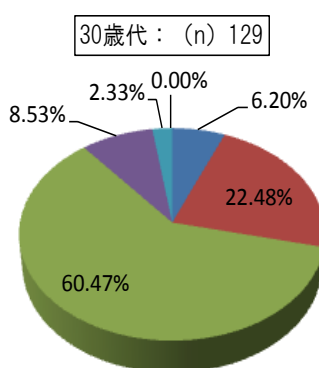
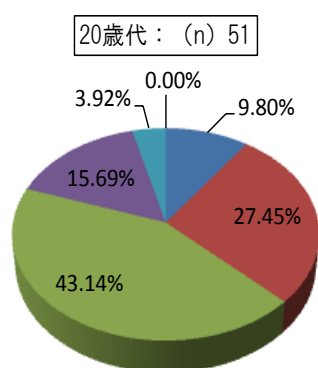
〔全体〕



〔性別〕



〔年代別〕



【考察】

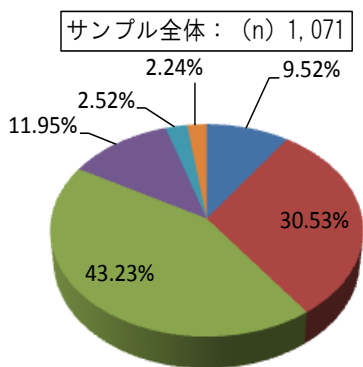
- 総体的には「満足」「やや満足」の方が「不満」「やや不満」の割合を大幅に上回っている。
- 性別では男性の方が女性に比し「満足」「やや満足」の割合がやや高い傾向にある。
- 年代別ではどの世代においても「満足」「やや満足」の方が「不満」「やや不満」の割合を大幅に上回っており、年代問わず満足感に高い傾向が見られる。

【自然環境】

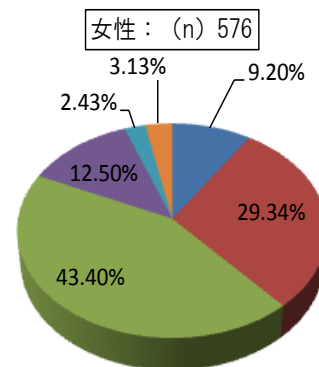
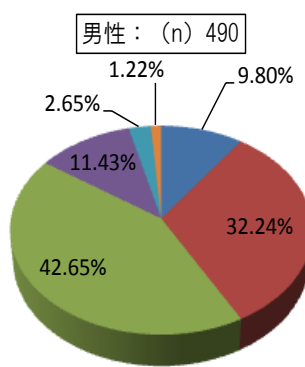
自然とのふれあいを体験する場や公園が適切に維持・管理されるなど、人と自然が共生する潤いと安らぎのある環境が創られている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

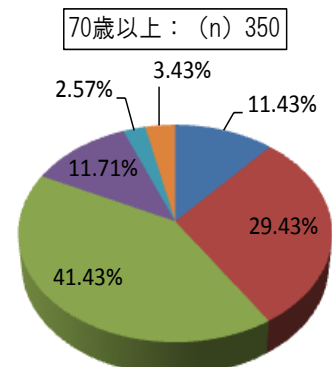
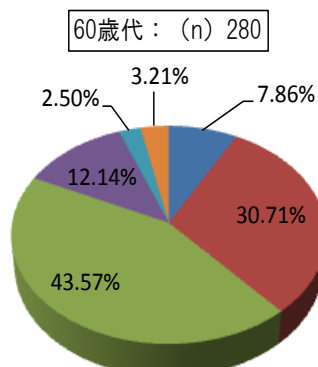
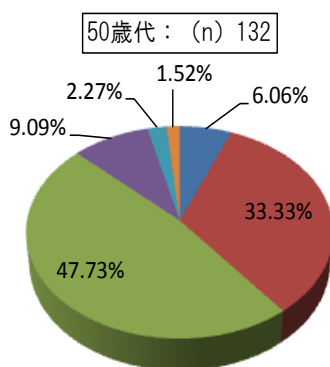
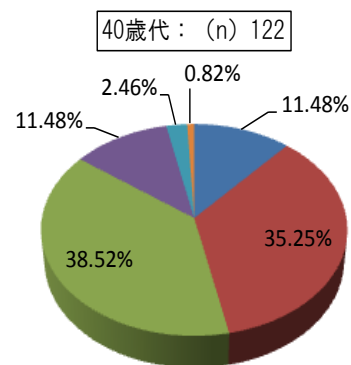
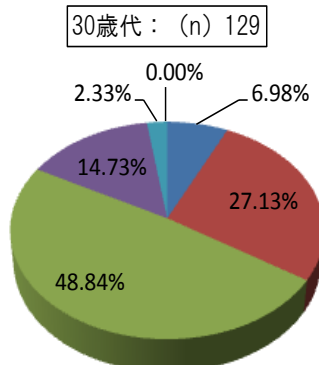
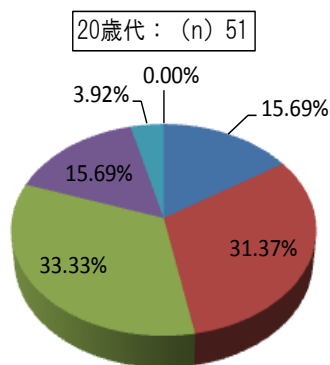
〔全体〕



〔性別〕



〔年代別〕



【考察】

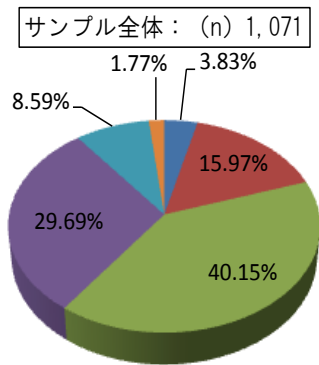
- 総体的には「満足」「やや満足」の方が「不満」「やや不満」の割合を大幅に上回っている。
- 性別では男性の方が女性に比し「満足」「やや満足」の割合がやや高い傾向にある。
- 年代別ではどの世代においても「満足」「やや満足」の方が「不満」「やや不満」の割合より高く、年代問わず満足感に高い傾向が見られる。

【防災】

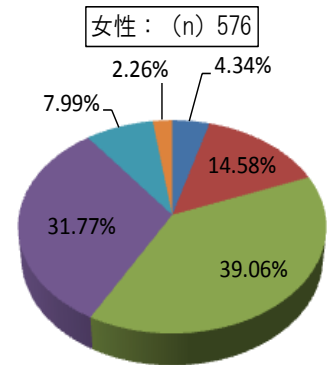
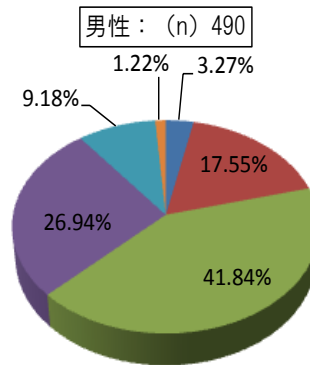
地震や津波などの自然災害に対する準備（訓練、資器材整備）や被害を最小限に抑える対策・体制（避難所や避難経路の周知、情報伝達機能）が整っている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

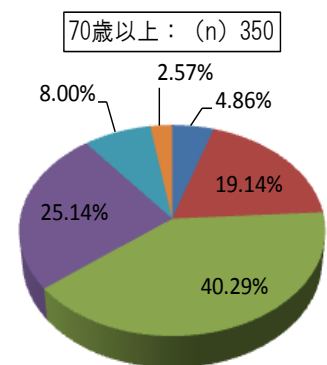
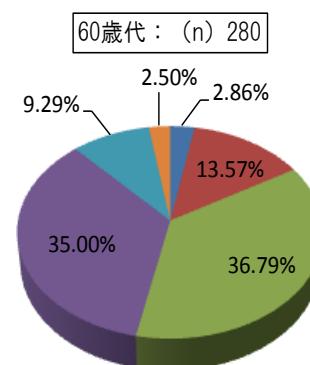
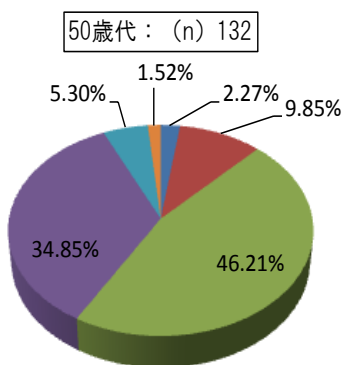
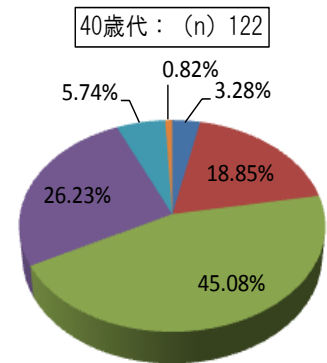
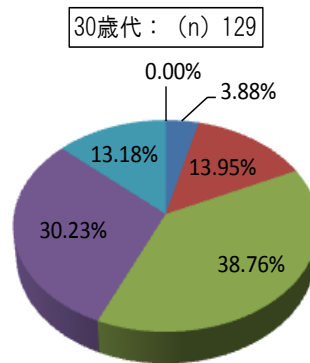
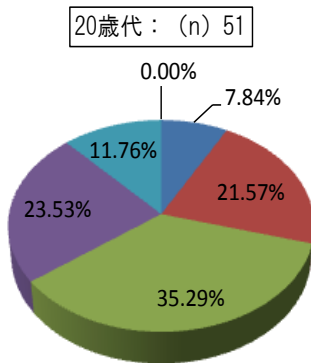
〔 全 体 〕



〔 性 別 〕



〔 年 代 別 〕



【考察】

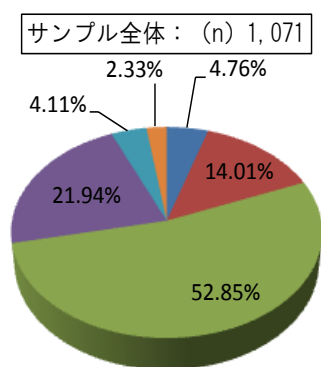
- 総体的には「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」の割合より高い。
- 性別では女性の方が男性に比し「不満」「やや不満」の割合がやや高い傾向にある。
- 年代別ではどの世代においても「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」の割合より高く、年代問わず不満感に高い傾向が見られる。

【消防・救急】

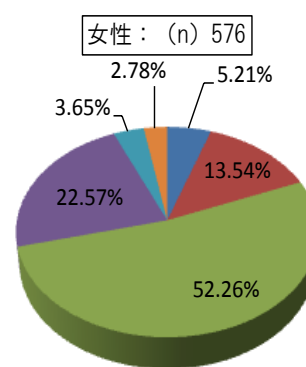
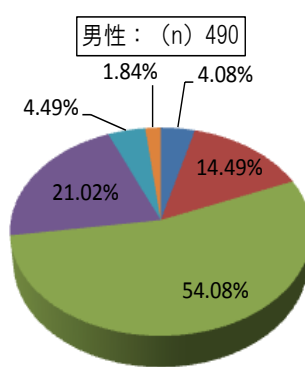
市民一人ひとりに防火意識が浸透されているとともに、さまざまな事案に対応する救急救助体制が整っている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

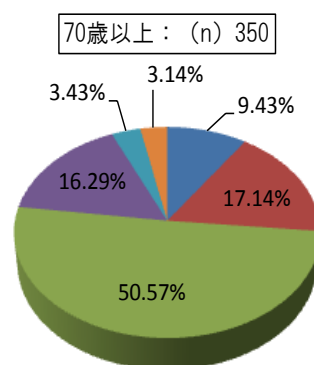
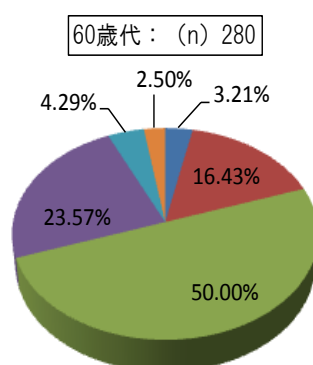
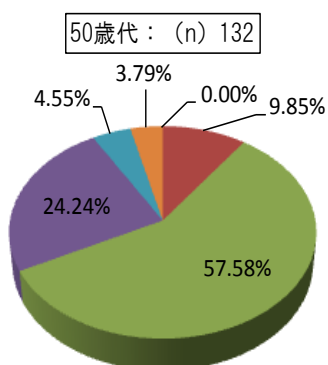
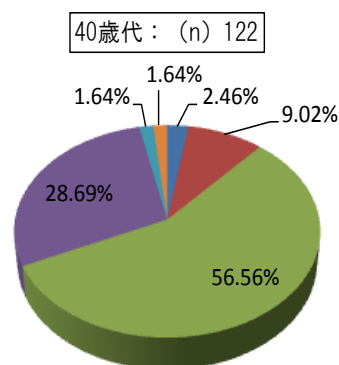
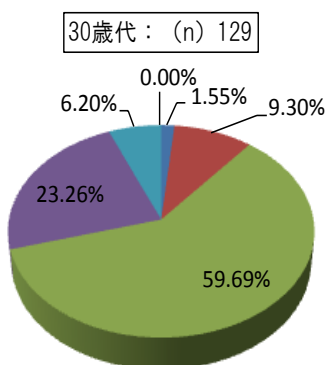
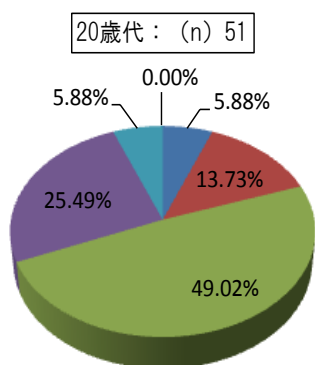
〔 全 体 〕



〔 性 別 〕



〔 年 代 別 〕



【考察】

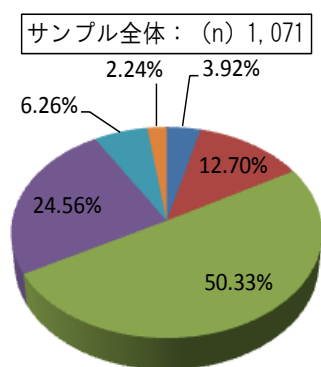
- 総体的には「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」の割合よりやや高い。
- 性別では男女間において大差はないが、年代別では60歳以下の各世代で「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」の割合より高く、不満感に高い傾向が見られる。

【交通安全】

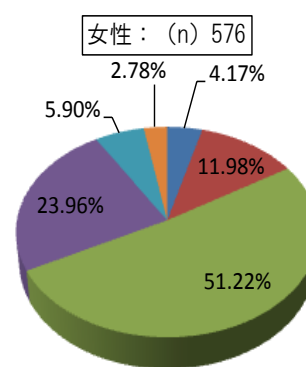
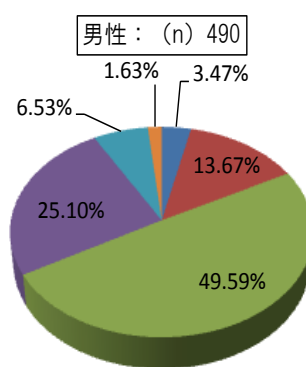
交通ルールが守られ、交通事故が未然に防止されているとともに、安全で安心して通行できる環境が整っている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

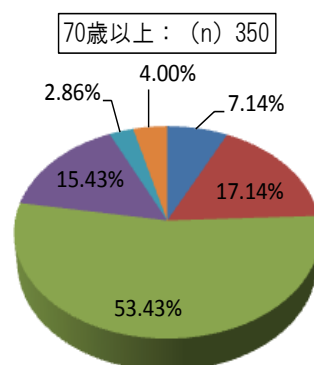
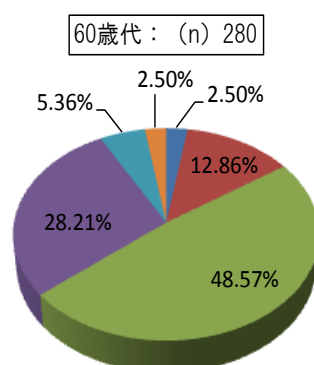
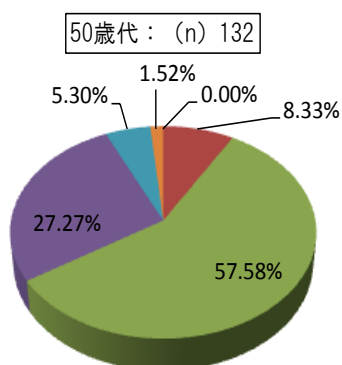
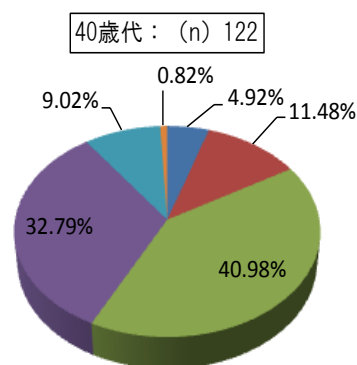
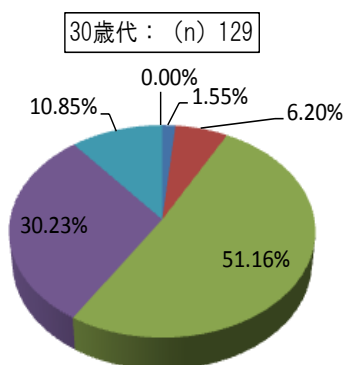
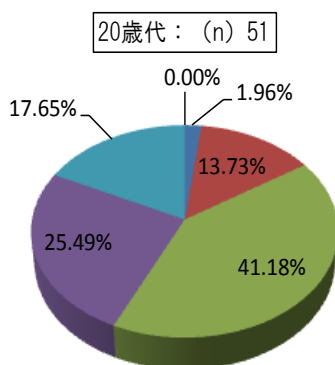
〔 全 体 〕



〔 性 別 〕



〔 年 代 別 〕



【考察】

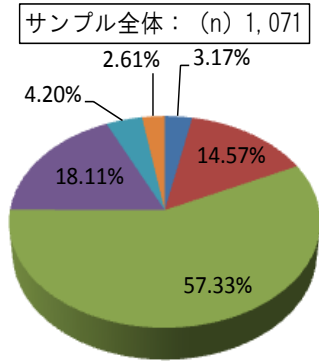
- 総体的には「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」の割合より高い。
- 性別では男女間において大差はないが、年代別では60歳代以下の各世代で「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」の割合より高く、不満感に高い傾向が見られる。

【防犯】

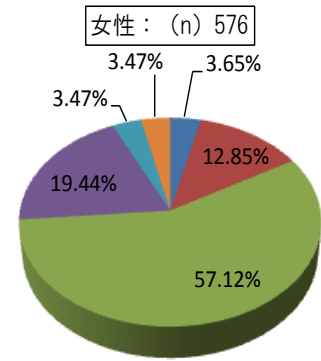
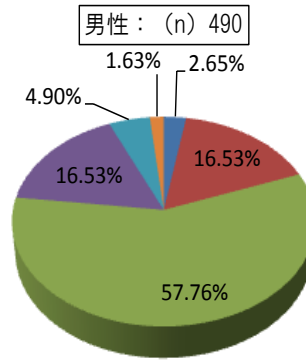
犯罪や少年非行のない住みよい地域社会となっている。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

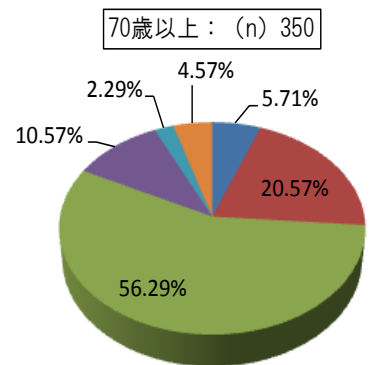
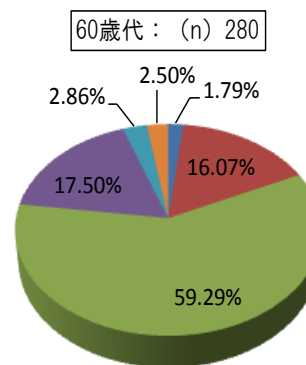
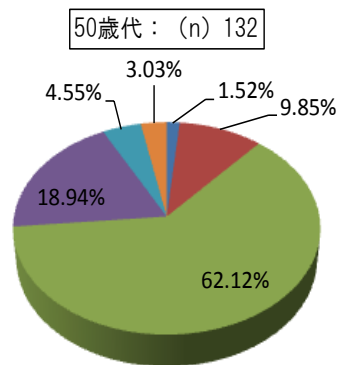
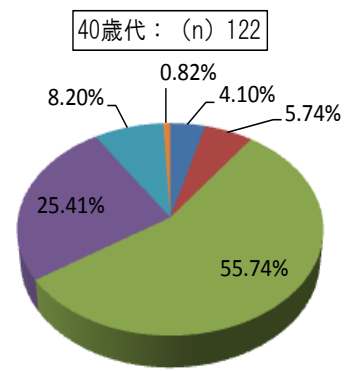
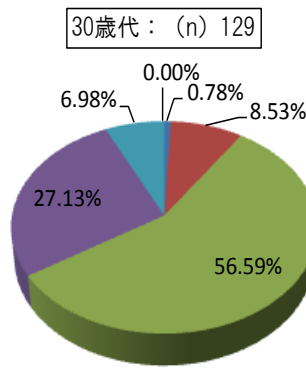
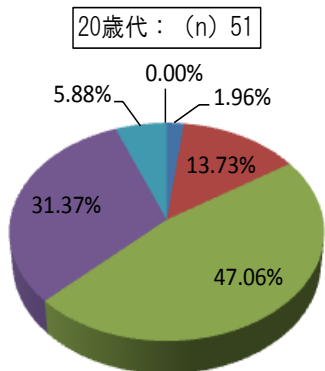
〔全体〕



〔性別〕



〔年代別〕



【考察】

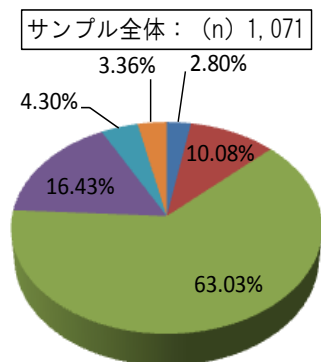
- 総体的には「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」の割合よりやや高い。
- 性別では男女間において大差はないが、年代別では60歳代以下の各世代で「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」の割合より高く、不満感に高い傾向が見られる。

【消費生活/市民相談】

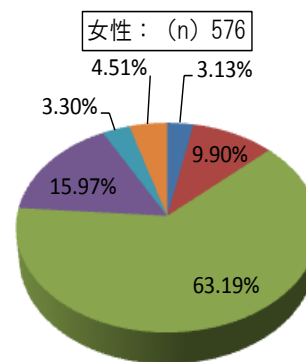
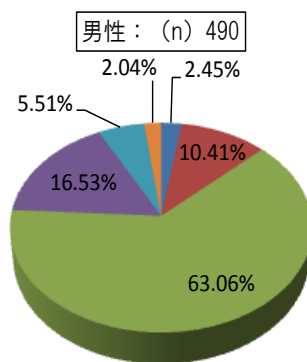
消費生活や日常生活上の心配ごとや困りごとなどに応じた相談体制が充実している。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

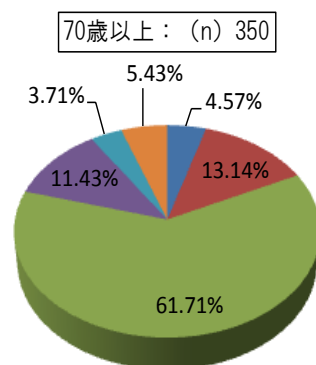
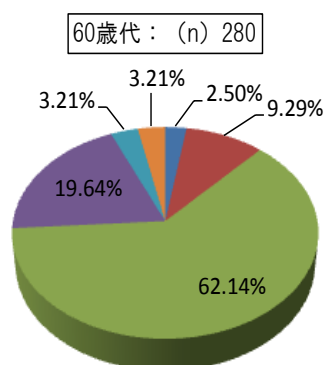
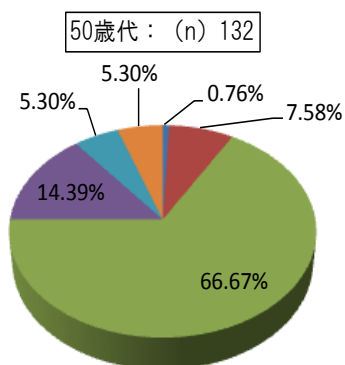
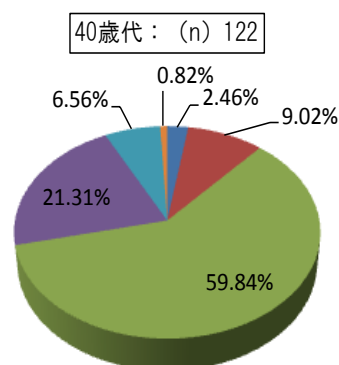
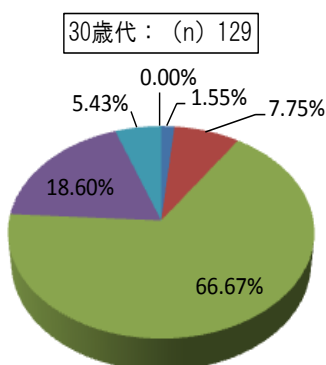
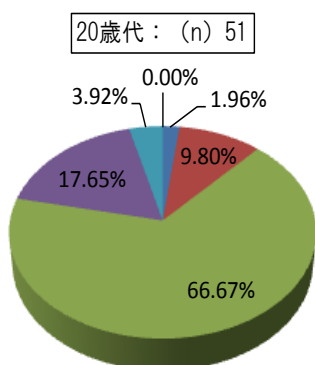
〔 全 体 〕



〔 性 別 〕



〔 年 代 別 〕



【考察】

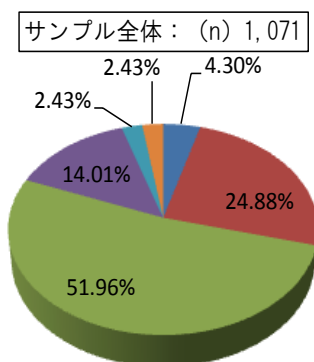
- 総体的には「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」の割合よりやや高い。
- 性別では男女間において大差はないが、年代別では60歳代以下の各世代で「不満」「やや不満」の方が「満足」「やや満足」の割合より高く、不満感に高い傾向が見られる。

【第2章の総合的な満足度】

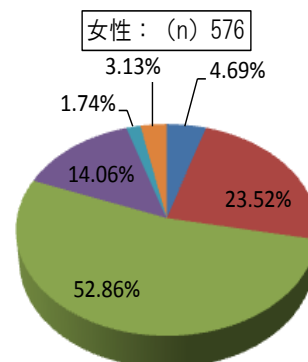
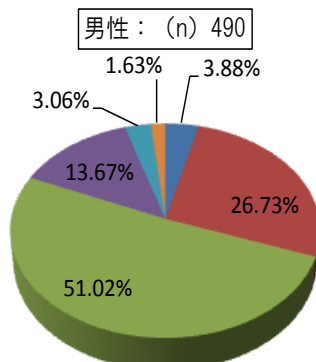
第2章「自然とともに暮らすまち」（環境保全、廃棄物、下水道、自然環境、防災、消防・救急、交通安全、防犯、消費生活/市民相談）について、あなたの総合的な「満足度」をお聞かせください。

■ 満足 ■ やや満足 ■ 普通 ■ やや不満 ■ 不満 ■ 未回答

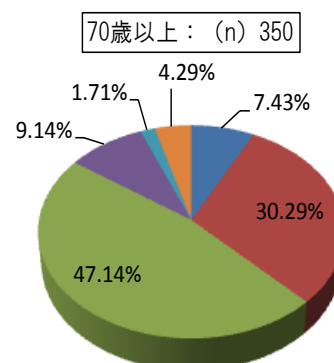
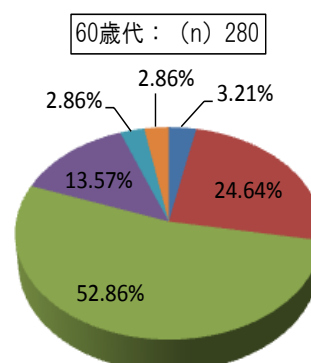
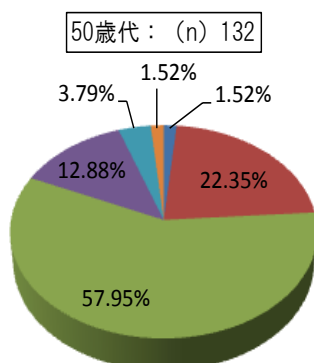
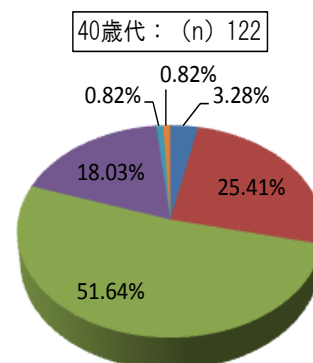
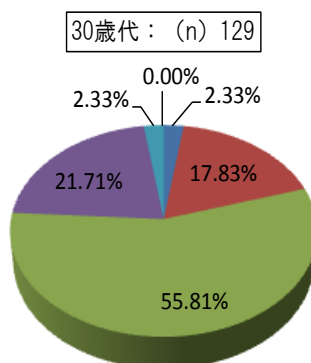
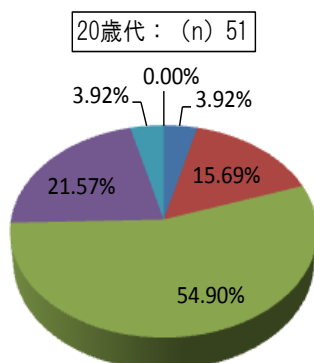
〔全体〕



〔性別〕



〔年代別〕

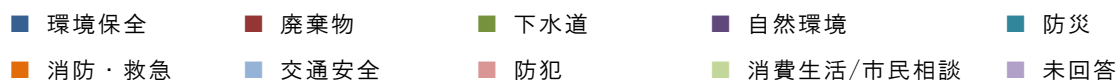


【考察】

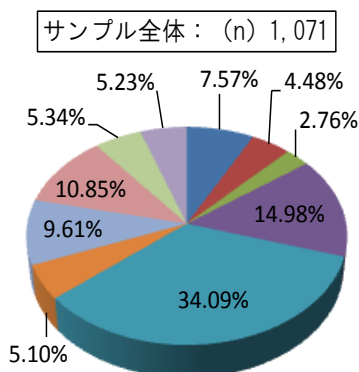
- 総体的には「満足」「やや満足」の方が「不満」「やや不満」の割合より高い。
- 性別では男女間において大差はないが、年代別では40歳代-70歳以上で「満足」「やや満足」の割合が高く、高齢世代の満足感に高い傾向が見られる。

【第2章に掲げる施策の重要度】

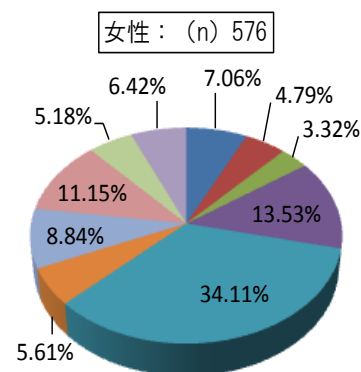
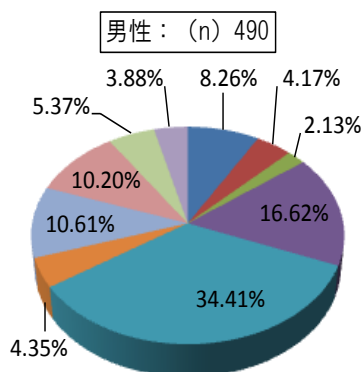
第2章「自然とともに暮らすまち」（環境保全、廃棄物、下水道、自然環境、防災、消防・救急、交通安全、防犯、消費生活/市民相談）の中で、あなたが特に「重要と考える項目」をお聞かせください。



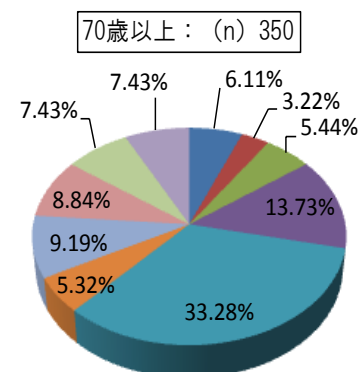
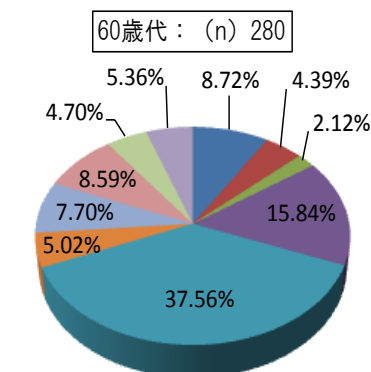
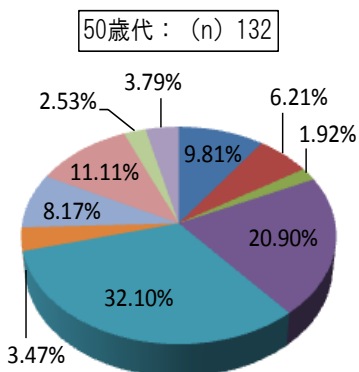
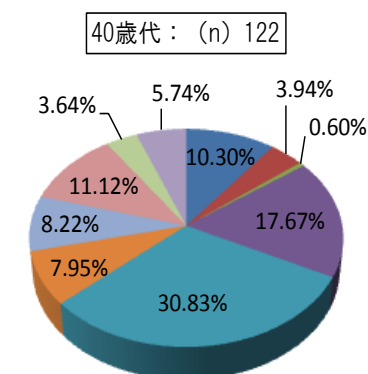
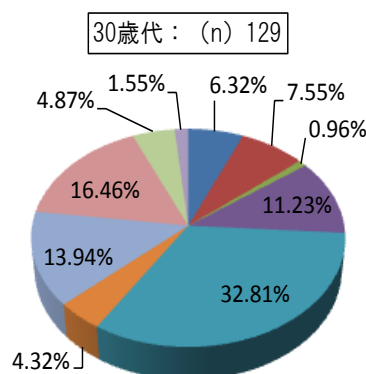
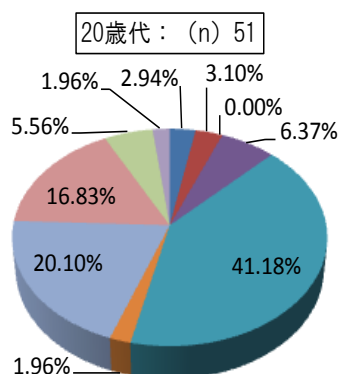
〔全体〕



〔性別〕



〔年代別〕



【考察】

- 総体的には「防災」が最も高く、次いで「自然環境」「防犯」の順で重要とする割合が高い。
- 性別では男女共に「防災」「自然環境」の順で重要とする割合が高く、次いで男性は「交通安全」、女性は「防犯」が続いている。
- 年代別では全世代において「防災」を重要とする割合が最も高く、総じて防災意識の高さがうかがえる。また、若い世代は「防犯」「交通安全」の順で続き、高齢世代では「自然環境」「防犯」の順で重要とする割合が高い。

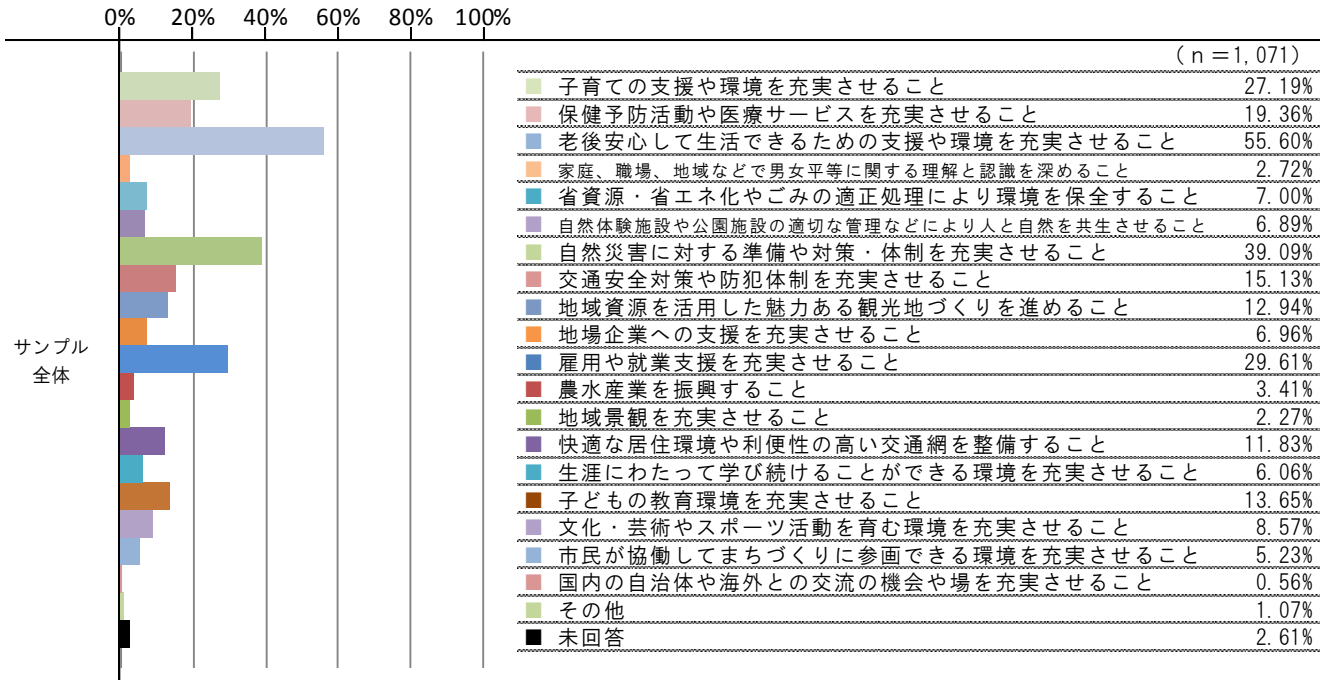
調査結果の分析

◇魅力あるまちづくりのために重要なこと

【魅力あるまちづくりのために重要なこと】

あなたが魅力あるまちづくりのために重要と考えることをお聞かせください。

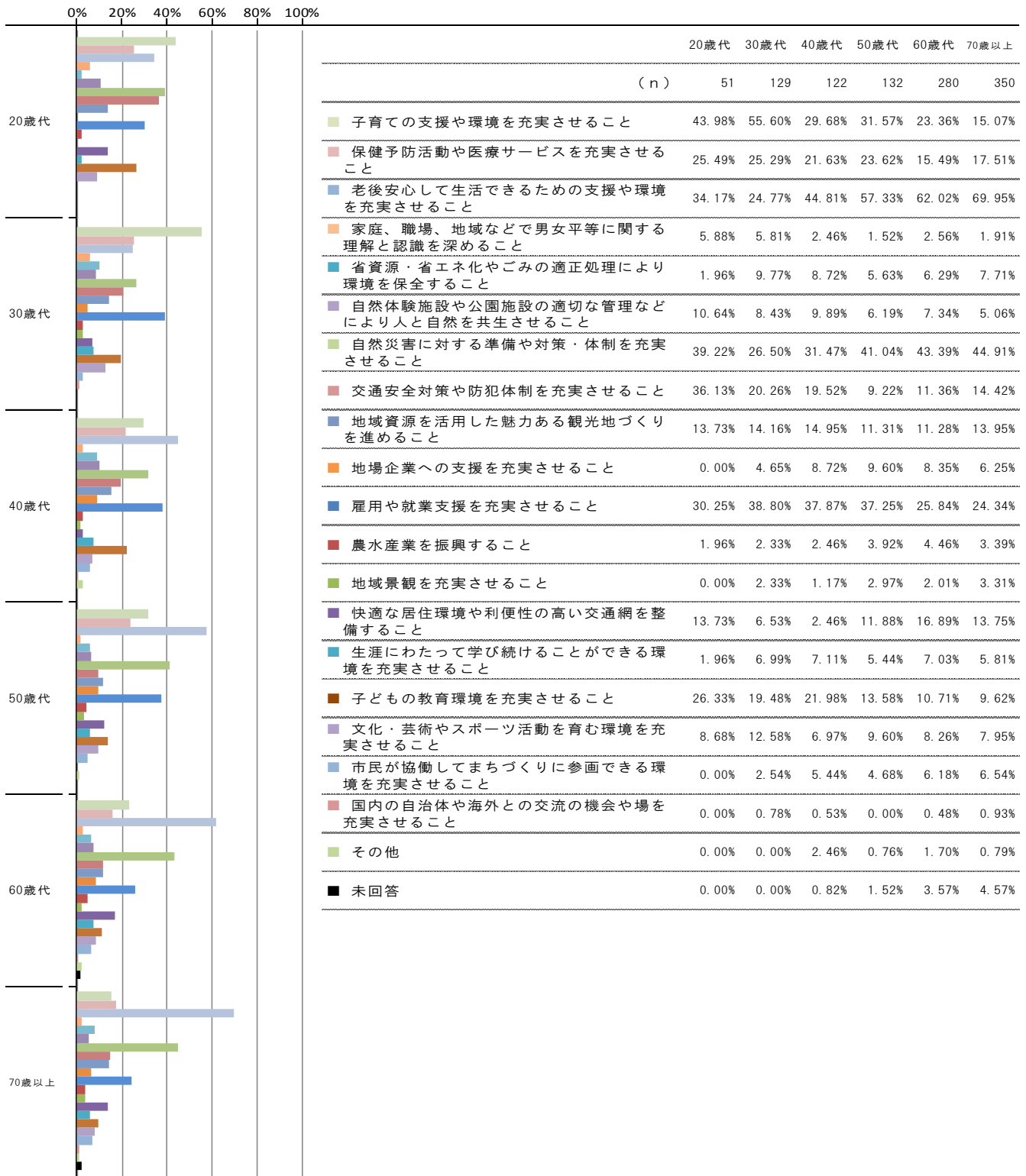
〔 全 体 〕



〔 性 別 〕



〔年代別〕



【考察】

- 総体的には「老後安心して生活できるための支援や環境を充実させること」が最も高く、次いで「自然災害に対する準備や対策・体制を充実させること」「雇用や就業支援を充実させること」の順で重要とする割合が高い。また、性別における上位3項目に関しても男女共に全体と同様の項目及び順で重要とする割合が高い。
- 年代別では20-30歳代で「子育ての支援や環境を充実させること」を、40歳代-70歳以上では「老後安心して生活できるための支援や環境を充実させること」を重要とする割合が最も高い。また、全世代において「自然災害に対する準備や対策・体制を充実させること」「雇用や就業支援を充実させること」を重要とする割合が高く、その意識の高さがうかがえる。

平成24年度登別市まちづくり意識調査結果報告書
平成25年3月
総務部政策推進室政策推進グループ